

韓国

マクロ経済動向

韓国銀行（中央銀行）が1月24日に公表した2013年第1四半期の成長率は、季節調整値で前期比0.9%（年率換算3.6%）で前期の同0.3%から上昇した。需要項目別に見ると内需では、最終消費支出は同0.1%で前期の0.5%から低下した。その内訳では民間消費が▲0.1%でマイナスとなった。これは昨年末で自動車に対する減税措置が終了したことによる需要減、昨年12月の記録的な寒さによって衣料、燃料などの購入が急増した反動などによるものである。固定資本形成は同2.9%で4四半期ぶりにプラスとなった。その内訳では設備投資が同3.0%で、やはり4四半期ぶりのプラスとなっている。また、外需の財・サービスの輸出は3.2%で、前期の▲1.1%からプラスに転じている。全体としては比較的高い成長を記録したが、韓国銀行としては今期の伸びは設備投資など、これまでの落ち込みの反動という側面が強く、今後については経済成長の波が上下するリスクがあるとしている。

2013年第1四半期の鉱工業生産指数の伸び率は、季節調整値で前期比0.1%となり、前期の同0.9%から低下した。月次では、2月は前期比1.1%であったが、3月は同▲0.9%となっている。

2月の失業率は季節調整値で3.7%、3月は3.3%となった。

2013年第1四半期の貿易収支（IMF方式）は、9億3910万ドルの黒字であった。2月は2億5630万ドル、3月は4億2100万ドルのそれぞれ黒字である。

対ドル為替レートは2月に1ドル＝1,086ウォン、3月に同1,104ウォン、4月に同1,121ウォンとややウォン安気味に推移している。

消費者物価上昇率は2月に前年同月比1.4%、3月に同1.3%、4月に同1.2%と推移している。生産者物価上昇率は2月に▲1.6%、3月に▲2.4%とマイナスで推移している。

今後の展望

韓国銀行は4月11日に経済見通しを発表し、2013年の成長率を2.6%、2014年を同3.8%と予測している。2013年の予測値は1月に発表した2.8%を0.2ポイント下回る数字であり、予測の下方修正が続いている。2013年の成長率を需要項目別に見ると、内需は民間消費が2.5%で前回予測値から0.3ポイント、設備投資が2.3%で前回予測値から0.4ポイント、それぞれ下方修正された。一方、建設投資は2.7%で前回予測値から0.2ポイントの上方修正となっている。

外需である輸出は5.2%で2012年の3.8%を上回るとしているが、現在進行中の円安が一層進展した場合、多くの分野で日本製品と競合する韓国の輸出には、ダウンサイドリスクが生ずると見られる。

成長率の低迷により雇用面では状況が悪化する見通しである。2013年の失業率については3.3%とほぼ前年比横ばいとしているが、雇用者数の増加は2012年の44万人から、28万人に減少すると見込んでいる。これは前回予測よりもさらに2万人少なく、雇用状況の深刻化が懸念される。

一方、2013年の消費者物価上昇率は2.3%で、前回予測から0.2ポイント下方修正され、2012年の2.2%からほぼ横ばいを見込んでいる。また食品とエネルギーを除いたコア・インフレ率は1.9%と見込んでいる。

2013年の上半期と下半期の成長率については、上半期が前年同期比1.8%、下半期が同3.3%で、年後半に成長率が高まると見込んでいる。特に設備投資については2012年後半の実績が前年同期比▲6.1%と大きく落ち込んでいるため、2013年上半期は対前年同期比で▲6.1%と引き続きマイナスを記録し、下半期で同11.3%を大きく回復するとしている。

全体として、2012年に続き成長率が2%台に止まるという見通しは、4%程度と見られる韓国の潜在成長率を下回り、雇用面などで深刻な経済状況が長期化することとなる。朴槿恵政権は早速、経済面で有効な政策を求められることとなる。

（ERINA調査研究部主任研究員 中島朋義）

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	12年4-6月	7-9月	10-12月	13年1-3月	2月	3月	4月
実質国内総生産 (%)	2.3	0.3	6.3	3.6	2.0	0.3	0.0	0.3	0.9	-	-	-
最終消費支出 (%)	2.0	1.2	4.1	2.2	2.2	0.4	0.8	0.5	0.1	-	-	-
固定資本形成 (%)	▲1.9	▲1.0	5.8	▲1.1	▲1.3	▲3.8	▲1.5	▲1.6	2.9	-	-	-
鉱工業生産指数 (%)	2.8	▲0.1	14.0	5.9	0.9	▲0.1	▲2.2	0.9	0.1	1.1	▲2.1	-
失業率 (%)	3.2	3.6	3.7	3.4	3.2	3.3	3.1	3.0	3.3	3.7	3.3	-
貿易収支 (百万USドル)	5,170	37,866	40,083	31,660	38,338	8,521	13,341	13,864	9,391	2,563	4,210	-
輸出 (百万USドル)	422,007	363,534	466,384	555,214	547,870	140,130	133,125	139,768	135,465	42,327	47,437	-
輸入 (百万USドル)	435,275	323,085	425,212	524,413	519,584	130,431	125,652	129,831	129,684	40,307	44,149	-
為替レート (ウォン/USドル)	1,103	1,276	1,156	1,108	1,127	1,152	1,133	1,090	1,085	1,086	1,104	1,121
生産者物価 (%)	8.5	▲0.2	3.8	6.7	0.7	0.9	▲0.2	▲0.9	▲1.9	▲1.6	▲2.4	-
消費者物価 (%)	4.7	2.8	3.0	4.0	2.2	2.4	1.6	1.7	1.4	1.4	1.3	1.2
株価指数 (1980.1.4 : 100)	1,124	1,683	2,051	1,826	1,997	1,854	1,996	1,997	2,005	2,026	2,005	1,964

(注) 国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、鉱工業生産指数は前期比伸び率、生産者物価、消費者物価は前年同期比伸び率、株価指数は期末値

国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、鉱工業生産指数、失業率は季節調整値

国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、生産者物価は2005年基準、消費者物価は2010年基準

貿易収支はIMF方式、輸出入は通関ベース

(出所) 韓国銀行、統計庁他